

## 16年度第1四半期決算説明会 質疑応答要約

Q) 今回の決算において、社内計画に比べかなり利益が上振れていると思われるが、どの事業が見通しと異なっていたか？

A) 社内計画に対して大きく上振れたのはプリンティング事業。米国や中国でセルインが好調だったことに加え、開発費の抑制、販促費の効率化といった、中期戦略における P&S 事業の収益性向上のための施策の効果が一部顕在化したと考えている。また、円高の進行に伴い、在庫未実現利益の消去額が減少したことも、利益の押し上げ要因になっている。

Q) 産業機器の売上を、IT 関連と自動車・一般顧客向けに分けるとどうなるか？

A) 1Q は、中国において、IT 関連の需要に一部回復の動きが出てきたこともあり、売上に占める IT 関連向けの割合は 5 割弱となった。足元においても、中国ローカルの IT 顧客向け、自動車・一般顧客向けとも安定的に推移しており、下期にかけて期待が持てる状況となっている。

Q) 通期の計画で、事業セグメント利益を 40 億円上方修正しているが、その背景は？

A) 為替レートを円高に見直した影響で、通期では約 70 億円のマイナスがあるものの、Q1 実績及び期初計画に対する進捗度を考慮し、40 億円の上方修正を行ったもの。

以 上